～希少がんを知り・学び・集うセミナー！～

希少がん　Meet the Expert

第 7 回 「胸腺腫・胸腺がん」開催レポート

今回で第 7 回目となる「希少がん Meet the Expert」が、7 月 14 日(金)、国立がん研究センター希少がんセンターにて行われました（共催：がん情報サイト「オンコロ」、認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン)。今回のテーマは「胸腺腫・胸腺がん」。同センター呼吸器内科の後藤 悌先生をお迎えし、ご講演いただきました。司会は希少がんホットライン担当看護師の加藤陽子さんです。

胸腺とは、胸骨の後方、心臓の上前部に位置するリンパ性器官です。この器官にできるがんである「胸腺腫」と「胸腺がん」について、後藤先生より解説がありました。胸腺腫と胸腺がんはかなり異なるものですが、あわせて「胸腺上皮腫瘍」と呼ばれています。症例数が少ないために、両方一緒に研究がされているとのこと。発症は 30 歳以上(特に 40～70 歳)に多く、大部分が無症状です。

胸腺腫の治療は、外科手術が基本であり、状況によって放射線治療や補助的化学療法、もしくは集学的治療を行います。胸腺腫の多くは進行が遅いため、ステージⅣでも腫瘍の量を減らす目的で手術を行うことがあるとのお話でした。局所進行胸腺腫に対する化学療法では、シスプラチンを中心にその他の薬剤を組み合わせて行いますが、現在のところ、確立したレジメン(薬物治療の種類・量・手順などの計画書)はありません。

また、胸腺がんは、胸腺腫よりもさらに症例数が少なく、進行も速いがんです。治療としては、手術での完全摘出を目指し、放射線治療や化学療法を追加することもあります。日本で圧倒的に多く使われている薬剤はカルボプラチン＋パクリタキセルで、治療成績はいいとされているとのことでした。

そのほか、最新の医療情報として、「プレシジョン・メディシン(遺伝子などを調べ、一人ひとりの特徴に合った治療を行う)」や、今後期待されている薬剤についてのお話がありました。

続いての Q&A では、後藤先生と加藤さんに、オンコロ・コンテンツ・マネージャーの柳澤昭浩さん、同じくオンコロの可知健太さんが加わって行われました。話題は、「海外で使用できるようになった薬剤が、なぜ日本ではなかなか使えるようにならない場合があるのか」「プレシジョン・メディシンは胸腺癌に応用できるのか」「放射線治療と重粒子線治療の差」など。非常に濃い内容の Q&A となり、参加された方も聞き入っていました。

今回は、首都圏以外の遠方から参加された方も多くいました。「胸腺腫のセミナーはほとんどないので参加しました」という声もあり、Q&A の熱の入りようを見ても、患者さんやご家族が積極的に学んでいこうとしていることを強く感じました。また、秋田県で活動している胸腺腫・胸腺がん患者会「ふたつば」の代表者がご来場くださったことで、新しいつながりも生まれたのではないかと思います。

※治療に使われるガイドライン(医師向け)は、どなたでも閲覧可能です(日本肺癌学会「肺癌診療ガイドライン」https://www.haigan.gr.jp/modules/guideline/index.php?content_id=3)

(開催日:2017 年 7 月 14 日／写真・文　木口マリ)

【共催】

国立がん研究センター希少がんセンター/がん情報サイト「オンコロ」/認定 NPO 法人キャンサーネットジャパン

【後援・運営協力】

株式会社かるてぽすと/樋口宗孝がん研究基金/株式会社クリニカル・トライアル/株式会社クロエ